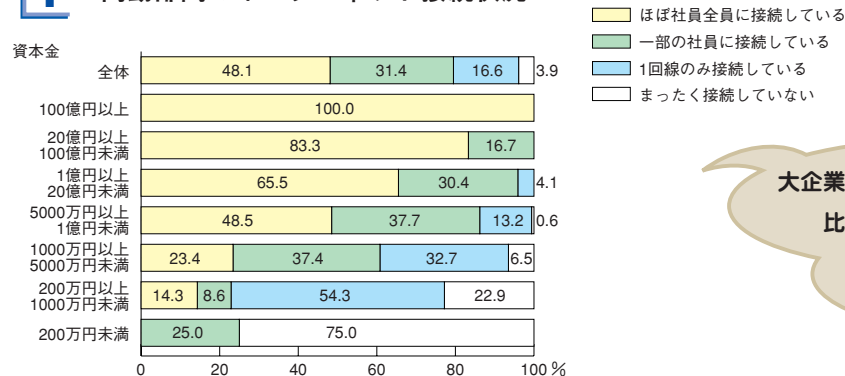


建設業界IT化の現状

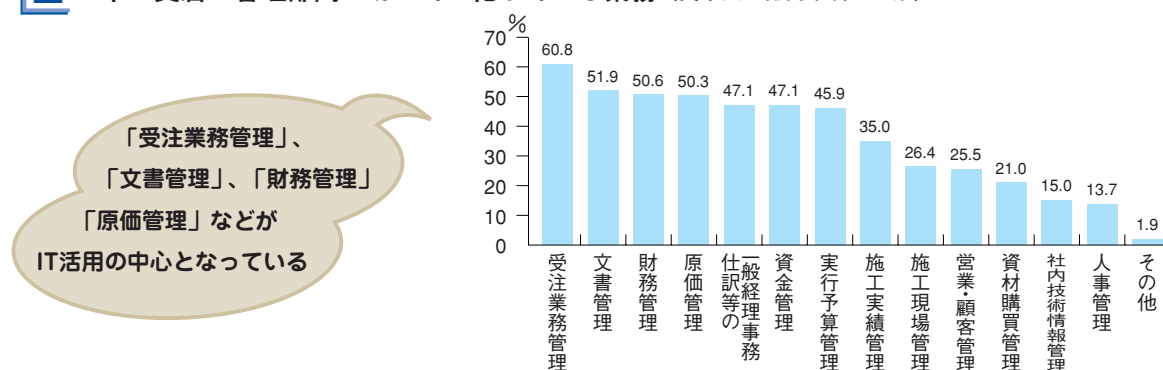
2003年度 建設企業のITの活用状況に関するアンケート調査結果
(財団法人 建設経済研究所 2003年8月発行より)

1 内勤部門のインターネット接続状況



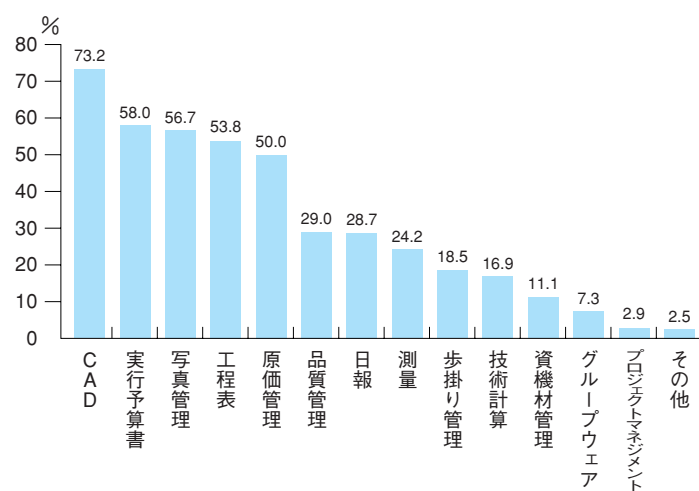
大企業の「ほぼ全社員に接続」に
比べ、中小企業のインター
ネット接続環境の整備は遅れて
いるのが現状

2 本・支店の管理部門においてIT化している業務 (資本金1億円未満の企業)



「受注業務管理」、
「文書管理」、「財務管理」
「原価管理」などが
IT活用の中心となっている

3 現場で活用しているソフトウェア (資本金1億円未満の企業)



業務に直結するソフトは、
資本金1億円未満の建設企業
においても50%以上で活用
されている。
今後はグループウェアの導入
が望まれる。

■調査：財団法人 建設経済研究所

調査実施期間：2003年5月～6月

調査方法：郵送による留置き法

調査対象：資本金100億円以上から資本金200万円未満の企業までの建設企業（土木・建築企業）

送付先の選定は、資本金20億円以上の企業は全社、資本金20億円未満の企業は資本金階層別に無作為抽出

第1回

シリーズ 業界IT化探訪

建設業レポート

国土交通省に聞く

どうなるだろう？

建設業界のIT化事情

本コーナーでは、建設業界に焦点をあて、IT化の現状と課題、新しい取り組みなどをレポートしていく。

第1回目となる今回は、業界の全体像を鳥瞰すべく、国土交通省総合政策局の鈴木貴典課長補佐にインタビューを行った。

平成15年4月からの電子入札全面実施で、建設業のIT化がクロージアップされています。

鈴木 確かに、電子入札は元請企業に必須となりましたので、統一的に効率化が進んでいます。しかし、元請企業の先にはまだ多くの関連企業があるわけで、これら建設関係企業間、また企業内のIT化が課題として残されています。

建設業界は年間55兆円という巨大市場であり、就業者は6百万人に達しています。しかし昨今の建設投資の低迷で受注減や利益率の低下が進み、厳しい経営環境に直面しているのも事実です。雇用を支え地域経済に活力をもたらすためにも、ITの活用による改革が求められていると

考えます。

業界全体で
取り組んでいる
IT化はありま
すか。

鈴木 業界内で
コンピューター
ネットワークを
効率的に利用す
るため、財団法人建設業振興基金が

標準化を進めているのが「CINET」と「C-CAD-EC」です。

「CINET」は商取引に必要な見積書、注文書、請求書などの情報を標準化された方法で交換する仕組みです。一方、「C-CAD-EC」は設計から施工・維持管理に関するCADデータ等の交換・共有について



国土交通省 総合政策局 建設業課
入札制度企画指導室 課長補佐

鈴木 貴典 氏

のルール作りであり、ともに標準化による業界全体の生産性向上を目指したものです。

効率化には情報開示が有効
業界内の企業の大半は中小規模の事業所だと思っています。これらの企業にとってIT化のメリットはどんなところにあるのでしょうか。

ITによる生産性の向上で
需要減乗り切る体力を

鈴木 建設と一口に言っても基礎工事部分から建築、電設まで様々な企業があるため、すべての企業に当てはまる処方箋のようなものは探しにくい。

しかし、建設はプロジェクトごとに数ヶ月間、異なる業種の人々が集まり、常に情報を共有して仕事を進めるというスタイルが中心

なので、ここに注目すると、例えば工事のスケジュールを企業間で共有することが考えられます。前工事の進捗が正確に把握でき資材調達や在庫のムダを減らすことにつながるでしょう。製造業などではITを使い徹底した在庫削減を行っています。こうした仕組みを作る余地もあるはずです。

しかしまだまだIT化に踏み切れない企業も多い……。

鈴木 「何をすればどのくらい儲かるか」という具体像が見えないのでIT投資に踏み切れない」というのが現状だと思います。ベンダーにはITのメリットが見えるソリューションを出していただきたいですね。IT化の糸口をつかみたい経営者の方々には、ITコーディネーター協会が主催している建設業向けの経営者研修会などに参加するのも有効です。

ITは情報の伝達を速くしたり大量の反復業務を高速に処理することでコストを下げるツールです。うまく活用して収益構造を改善し、変化の時代を生き抜いて欲しいと思います。